

2学期が始まって間もなく新型コロナウイルスが本園でも猛威を振るい自由登園、学級閉鎖等で皆様にはたいへんご心配やご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。また、自由登園や学級閉鎖の期間中、ご自宅でのお子様のお世話などご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

2学期が始まって間もなくの9月5日には、静岡県で園バスでの園児の置き去り事件が起きました。本園でも更なる事故防止のため、新たな対応策を講じることにしました。

【対策その1】

これまでの「乗車名簿」の他に新たに「通園バス 確認票」を作成し、チェック体制を強化することにしました。

「乗車名簿」は、毎朝、メール連絡網やお電話での連絡を受け、出欠や送迎について記録しています。

15	16	21	22	26	27
木	金	水	木	月	火
		欠	/	/	/
/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/
4	3	4	4	4	3
5	5	5	4	5	4

<乗車名簿>

日付	運行チェック表				バス車内チェック			安全確認
	バスコース	担当者	人数確認	車内チェック	掃除	消毒	消毒補充 バス準備品	運転者 担当印
9/16	赤	朝	6人	○	○	○	○	○
		帰り	6人	○	○	○	○	○
(金)	青	朝	4人	○	○	○	○	○
		帰り	4人	○	○	○	○	○
9/21	赤	朝	9人	○	○	○	○	○
		帰り	9人	○	○	○	○	○
(水)	青	朝	10人	○	○	○	○	○
		帰り	10人	○	○	○	○	○
9/22	赤	朝	9人	○	○	○	○	○
		帰り	9人	○	○	○	○	○
(木)	青	朝	10人	○	○	○	○	○

<通園バス 確認票>





＜添乗員の最終確認＞



＜運転手の最終確認＞

【対策その2】

園バス内から職員室への「お知らせチャイム」を設置しました。これは、ご家庭で使われているインターホーンがもとになっています。

あってはならないことですが、万が一、園バス内に取り残された場合、チャイムのボタンを押すことで、自分の存在を職員室に知らせることができるようにしました。

バスに乗る園児には、何のためのチャイムかを教えて、全員、チャイムを押して練習をしました。もも組さんも押すことができました。もちろん、ふざけて押さないことも教えました。

職員室に聞こえる音は、大きく設定してありますので、会話中でも誰もが聞こえるようになっています。



＜園バスの中央にあります＞＜もも組さんも押せます＞＜職員室でチャイムが鳴っています＞

新型コロナウイルス感染による自由登園・学級閉鎖、そして台風14号が過ぎ去り、元気な子どもたちが園に戻ってきました！ 嬉しかったです！ 嬉しかったです！ 園として、当たり前の日常を過ごすことができることの喜びを、ひしひしと感じました。味わいました。よかったです。



＜久しぶりの賑わいです！＞



＜シャボン玉が！＞



＜音楽に合わせて踊ってます！＞



さくら組さんが春先に植えたサツマイモの苗が大きくなり9月27日（火）に収穫に行ってきました。簡単にとれると思っていた子どもたちは、悪戦苦闘しながらなんとか掘り起こすことができました。手ごたえ十分でした。



9月6日に「郡山市PTA 連合会 第58回幼稚園・認定こども園ブロック研修会」がオンラインで開催されました。

皆様と同じ幼稚園・認定こども園の保護者の代表の方10名が、問題提起をしたり感想を述べたりしました。その中で「おっ！」と思った問題提起を一つ紹介いたします。

#### ◎第一分科会 「自立心を育てる生活習慣」

私には、小学2年生の長男と、年中の次男の二人の子どもがおります。ここ最近、特にコロナ禍に入ってから、二人ともイライラすることが増えたように感じます。理由は分かりませんが、今までのように思い切り外で遊んだり自由に好きな時に好きな遊びをさせてあげられていないからかなと申し訳なく感じていました。子どもたちのイライラが家中に充満し、だんだんと私までイライラモードになってしまうことも多くありました。

年中の息子が年少の時、朝の登園前のお着替えにいつも時間がかかりました。園の制服のボタンが小さく、自分ひとりではうまくできなかつたからです。私は朝はお弁当の準備などでバタバタ忙しく、あまり構ってあげられていませんでした。自分でやりたいのにうまくできないので泣き出し、幼稚園行かないとぐずり出すことがお決まりのパターン。こうなると頑固な息子はなかなか動きません。結局、私がサッと着替えさせ、大急ぎで幼稚園に出発です。毎日朝からバトルで、親も子もイライラハトハトです。

ある日、私は何気なく言いました。

「時計の針が、8になったら教えてね。」

普段は私が時間を見て、着替えの時間を指示していました。

「ママ、8になったよ！」

「教えてくれてありがとう。8になったら何するんだっけ？」

「お着替え！！」

この日は今までになく、スムーズに登園準備が終わりました。少し手伝いはしましたが、できなくても泣きませんでした。本人は頑張ったとご機嫌です。

声かけひとつでここまで変わるのかと、本当に実感した1日でした。振り返ると、この日は私が少し早起きをして時間に余裕がありました。

次の日から息子に変化がありました。自分から時計を見て、着替え出したのです。私は特に何もせず、すぐそばで見守ります。できるところまでやらせてみて、手伝ってと言われたら手を貸すようにしました。するとゆっくりではありますが、今までできなかったボタンが少しずつできるようになってきました。朝のお着替えバトル、終了のゴングが鳴りました。

年中になった今は、バトルをしていた頃がウソのような静かな朝です。コロナとの付き合い方にも慣れてきてストレスが減り、ひとりでできることも増え、自分に自信が出てきたからでしょうか。私自身も、自分の都合を子どもたちに押し付けないで、なるべく心に余裕を持って接するよう心がけています。それでもまだまだ子育てはうまくいかないことばかり。皆様のご家庭で気をつけていることや、子どもとの関わり方や声かけなど、工夫されていることがありましたら、ぜひ今後の子育ての参考にさせていただければと思います。

続いては、指導助言の先生方からのお言葉です。

“できた1割をほめれば、子どもはぐんぐん元気になる”

“「どうしてできないの！」から「あら、できたじゃない」に”

“いい子で無理している子には、失敗をほめるのも一方法”

“「ありがとう」は、最高のほめ言葉”



滑り台の下に  
朝顔が  
咲いて  
いました